

巻/頭/言

住まいの進化を支える家庭電器の最新技術の特集号に寄せて

Foreword to Special Issue on Latest Technologies of Home Appliances Supporting Evolution of Home Living

永友秀明

Hideaki Nagatomo



三菱電機では、2012年から“あしたを、暮らしやすく。SMART QUALITY”をテーマに掲げて技術や製品開発に取り組んでいます。このテーマには持続可能な循環型社会や健康長寿社会など社会全体が抱える様々な課題を高度な技術で解決し、一人ひとりの“暮らしのクオリティ”を高めるという意味が込められています。

この特集号では住まいの進化の視点で、家庭電器から住宅設備機器まで幅広い技術や製品を取り上げており、主に“居住空間のクオリティ”と“食生活のクオリティ”についてご紹介したいと思います。

“居住空間のクオリティ”を高める製品としては、エアコンとダクト用換気扇などがあります。

エアコン“霧ヶ峰Style FLシリーズ”は天井と壁、床などの室内の温度変化と人の位置や顔、手足の体感温度を細やかに判別し、より快適な空気の流れを作ります。また、体感温度にあわせて冷房と風だけの“爽風(そうふう)”を自動で切り替えます。使用電力量の9割を占める圧縮機の運転を止めることで消費電力を抑え、大幅な省エネルギーを実現しました。デザインでは、正面から吹き出し口が見えないシンプルで端正なフォルムによって多様化するインテリアとの調和を図りました。

ダクト用換気扇“サニタリータイプ”では、当社独自のコーティングを施し、羽根への汚れ付着を抑制することで、負担に感じる掃除の頻度を大幅に減らす工夫をしています。また、羽根形状と風路構造の改良によって最大3dBの低騒音を実現し、音の課題にも配慮した製品です。

“食生活のクオリティ”を高める製品としては、IHジャー炊飯器、冷蔵庫などがあります。

IHジャー炊飯器“本炭釜KAMADO”では、かまど炊きの農家を訪問し、予熱、本炊き、むらし工程の火力と温度、時間などを徹底的に調査しました。更なる火力強化の制御と羽釜形状に進化した新しい本炭釜によって、しっかりと

した粒感でありながら中はみずみずしい昔ながらのかまど炊きごはんの食感を皆様の食卓にお届けします。

冷蔵庫“WX/JX/Bシリーズ”では、これまで、いたみやすい肉や魚のおいしさと長期保存のために、一瞬で氷核を形成し、細胞内の水を凍らせない“切れちゃう瞬冷凍”と“氷点下ストッカーD”を搭載してきました。新製品では、肉と魚に加えて“野菜”のおいしさと長期保存の視点で野菜の体内時計と同期させる3色のLEDの光を照射し、ビタミンC量を増やす“朝どれ野菜室”を実現しました。栄養分が増え、みずみずしい鮮度を長持ちさせることで、まとめ買いした野菜をおいしく調理することができます。

ここで紹介した事例のほかにも当社の製品開発では“暮らしのクオリティ”を高めるために、より多くの人々が自由に使いこなせることに配慮した“らく楽アシスト”の視点が重要であると考えます。“らく楽アシストは、UD(ユニバーサルデザイン)の理念のもとに、誰もが“あん心して使える、らくに使える、楽しく使える”を三本の柱として家庭電器のUD配慮レベルを上げる取組みです。そこでは、UD開発のプロセスを体系化し、“UDガイドライン”の策定によって使いやすさ向上の精度を高めてきました。さらに、近年では、開発者が全国で開催されている障がい者の芸術、文化活動に参加し、いただいた様々なご意見を製品開発にフィードバックしています。障がい者にとって身体的負荷が少なく、簡単に操作できれば、高齢者や子供にも、あん心して使うことができます。子供にお手伝いを任せることで、子供自身が“できた!”という達成感にもつながり、家族全員が一緒に使うことで、楽しい会話が弾むかもしれません。

当社は、これからも社会全体の課題を受け止め、一人ひとりの“暮らしのクオリティ”を高める製品開発を推進し、より、あん心して楽しく暮らせる生活の実現に貢献していきます。皆様に、そこに住まう人々の視点に立った最新技術を感じていただきたいと思います。